



The 62nd Annual Meeting of the Japanese Society for Surgical Metabolism and Nutrition
日本外科代謝栄養学会第62回学術集会

ランチセッション 6

食道癌周術期管理の 実際と目標設定

2025
7/4 (金) 12:00~13:00

第3会場 シェーンバッハ・サボー 別館3階 立山
(東京都千代田区平河町2-7-4)

座長

鍋谷 圭宏 先生

千葉県がんセンター副病院長 千葉大学医学部臨床教授

演者

平松 良浩 先生

浜松医科大学 周術期等生活機能支援学講座
外科学第二講座 特任准教授

本セミナーは、整理券制ではありません。

共催

日本外科代謝栄養学会第62回学術集会

株式会社 シノテスト

食道癌周術期管理の実際と目標設定

浜松医科大学 平松 良浩 先生

食道癌手術は高侵襲で他の消化器癌手術と比較して手術合併症率や死亡率は高い。術前低栄養は周術期合併症のリスクだが、多職種周術期管理チームの介入で食道癌術後合併症の発生や体重の減少の抑制が期待できる。また一般的に予後不良とされる術前低栄養の患者群でも、周術期チームの介入によって術後の低栄養状態を回避できれば術前非低栄養患者群と同等の予後が期待できる。さらに患者自身が治療に関与する姿勢を促進することを目的として、食事・身体状況などを記載する治療日記と身体活動量を可視化できる装着型活動量計（WFT）を用いた患者支援を行っているが、WFT を併用することで治療日記の記載率が大幅に改善され、患者の治療意欲の維持・向上に貢献し、結果として術後合併症の軽減や在院日数の短縮に寄与し得ることを報告してきた。さらなる改善をめざし、食道癌術前の短期強化栄養運動プログラムについて特定臨床研究による単施設ランダム化比較試験を実施したのでその結果について紹介する。この臨床試験の結果を含め、これまでに報告してきた周術期支援内容を検討すると、周術期の活動量として 1 日あたりの歩数を目安として指導することが簡便で有用である可能性があると考えられる。

また食道癌患者は通過障害や周術期化学療法などの影響もあり低栄養状態となりやすい。低栄養状態では血清亜鉛値が低値になりやすく、亜鉛の欠乏は味覚異常、食欲低下や創傷治癒遅延、免疫機能低下などとも関連する。食道癌周術期の血清亜鉛値の注意点についても報告する。